家庭用生ごみ処理容器比較表

	庭	手軽さ	フタを開けた時のにおい	虫	堆肥	価格目安	ランニングコスト	使用方法・特徴
木枠の庭置きタイプとベランダ設置タイプ「バクテリアde キエーロ」 	必要 (土の上に置くタイプ) 不要 (ベランダ置きタイプ)	◎ (とても手軽)	◎ (しない)	◎ (わきにくい)	できる	土の上に置くタイプ：16,000～25,000円程度 ベランダ置きタイプ：19,000～27,000円程度 (黒土代含む)	かからない。(中の土を堆肥代わりに使用した場合は、補充が必要)	＜使用方法＞ ・ふたを開けて生ごみを投入し、よく土と混ぜ合わせる。(連続して同じ場所に投入しないよう、投入した場所に目印をつけるとよい。) ＜特徴＞ ・汁物、廃食用油可。ただし、貝がら、卵の殻、動物の骨は不可。 ・庭置きタイプは場所をとるので、庭にスペースが必要
昔ながらの地上式「コンポスター」 	必要	△ (コツがいる)	△ (夏場はきつい)	△ (わきやすい)	できる	3,000円～7,000円程度	年間数千円程度(発酵促進脱臭剤や害虫の駆除・防臭剤を使用する場合)	＜使用方法＞ ・地中10cmほど埋めて設置する。 ・ふたを開けて生ごみを投入する。水分量に応じて枯れ葉・土なども入れる。半年から1年かけてじっくりと堆肥が作れる。 ・容器内が一杯になったら、容器を引き上げて別の場所へ移設する。(容器を取り去り残った中身は、堆肥化しているところから堆肥として使用する。堆肥化していない部分は、土やビニール等をかぶせて、堆肥化するまでねかせておく。) ＜特徴＞ ・密閉状態のため水分過剰になりやすく、扱いが難しい。(悪臭や虫が発生しやすい)
土に深く埋め込む「ミラコンポ」 	必要	◎ (とても手軽)	△ (夏場はきつい)	× (非常にわきやすい)	できる	4個セットで16,000円程度 ※1回の申請で4個まで補助。	かからない。	＜使用方法＞ ・地中40cmほど埋めて設置する。 ・ふたを開けて生ごみを投入する。半年でほぼ完全に分解される。(複数個設置しておけば、1つが一杯になっても他の容器に投入でき、その間に生ごみの分解が促進される。) ＜特徴＞ ・汁物、くさった物、カビの生えた物、何でも投入OK ・地上に出ている部分が小さいため、庭に置くタイプの中ではコンパクト ・深さ40cmの穴を最初に掘るのが大変
堆肥作りに最適「EMバケツ」 	必要	△ (コツがいる)	△ (夏場はきつい)	◎ (わきにくい)	できる (堆肥の素)	3,000円程度 (ぼかし代含む) ※容器使用に際し、最低限必要なぼかしを容器と同時に購入した場合は、補助対象に含まれます。 ※1回の申請で2セットまで補助。	年間数千円程度(ぼかし代)	＜使用方法＞ ・ふたを開けて生ごみを投入しぼかしをふりかけ、空気に触れないようふたを閉める。液肥を抜くタイプのものは、定期的に液肥を抜く。 ・容器に一杯になったらふたをして1～2週間ほど置き発酵させると、堆肥の素ができる。(堆肥の素は土と混ぜて1ヶ月程度置くと堆肥になる。) ＜特徴＞ ・良質な堆肥の素がどんどんできる。そのため、それを利用する場所がない方には不適当。 ・夏場は発酵臭が強くなるため、肉や魚は入れない方が無難。
手軽に取り組める「通気式生ごみ保管排出容器」 	不要	◎ (とても手軽)	○ (投入物による)	◎ (わきにくい)	できない	1,600円程度	かからない。	＜使用方法＞ ・新聞紙等で包んだ生ごみを容器に入れ、コバエ用ネットをつけた上で風通しの良い場所に置く。 ・乾燥すると重量が減るので、そのままごみとして出すか、堆肥の材料などに使用する。 ＜特徴＞ ・場所を取らず手軽に取り組める。
電気代がかからない「手動式生ごみ処理機」 	不要	◎ (とても手軽)	○ (ほぼしない)	◎ (わきにくい)	できない	20,000円程度 (分解基材含む) ※容器使用に際し、最低限必要な分解基材を容器と同時に購入した場合は、助成対象に含まれます。	年間数千円程度(交換基材代)	＜特徴＞ ・容器に基材(チップや腐葉土など)を入れセッティングする。生ごみを投入するごとにハンドルをまわし中身を撹拌する。 ・製品によっては、定期的に基材を交換する。 ＜特徴＞ ・室内に置けばごみ箱感覚で手軽に使える。
補助	購入費の5分の4(上限3万円)の補助を市で行っています。メーカーの指定はありません。							